

# 交野市教委ニュース

第134号（令和2年8月7日発行）

## 令和2年度 交野市教育フォーラム

～交野市の小中一貫教育のこれまでとこれから～

7月31日（金）、令和2年度交野市教育フォーラムを、ゆうゆうセンター交流ホールにて開催しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市立小中学校10名程度の教職員が参加し、ソーシャルディスタンスを保つ形での実施となりましたが、「交野市の小中一貫教育のこれまでとこれから」というテーマのもと、講師としてお招きした兵庫県立大学環境人間学部 竹内和雄 准教授の講演とパネルディスカッションにより、交野市の小中一貫教育の方向性について改めて考える有意義な時間となりました。

### 「交野市の小中一貫教育のこれまでとこれから」

について考える

今回の講演は、パネルディスカッションの場を設けた形で行いました。竹内先生の進行のもと、各学園（中学校区）より1名の先生がパネリストとなり、各学園でこれまで取り組んできた小中一貫教育の成果と課題、そして、各学園及び各地域の特色を活かして9年間をつないだカリキュラム、「新たな科」の取組みについて発表しました。

交野が原学園（第一中学校区）は、これまで小中一貫教育のモデル校区として、カリキュラムの研究や児童生徒の交流等を積極的に進めてきました。今後は、令和4年度の交野小学校と長宝寺小学校の統合と、令和7年度の小中一貫校開校を見据えながら、さらに具体的な取組みを行っていきます。

たなばた学園（第二中学校区）は、明るく優しく、多様性を受け入れることができるという児童生徒の特性を大切にしてきました。引き続き小学校どうしの連携と、中学校との交流を進め、子どもたちの課題についてともに考えていきます。

星のまち学園（第三中学校区）からは、新たな科「星かがやき科」の創設にむけての経緯を中心に発表がありました。「星かがやき科」は、「将来もこのまちに住み続けたい」と願う児童生徒の育成をめざしています。今年度より実施し、検証を重ねていきます。

天の川学園（第四中学校区）は昨年度、外国語の市内公開授業を実施しました。外国語活動・外国語科を1つの柱として、ともに授業づくりをしていくことの意味や大切さを感じながら、9年間の学びの在り方について小中の先生が共有し、実践研究を進めています。



竹内先生からは、ご自身のご専門である生徒指導やネット問題等の背景からも、小学校と中学校が協働し、9年間をつないだ取組みや学びが今後さらに必要となってくる、ということ、小学校4年生～中学校3年生及び教職員への事前アンケートの結果に基づきながらお話がありました。また、現在のコロナ禍における子どもたちの心と学びの課題についても触れ、小中の先生が共有と連携を図りながら慎重に対応していく必要性についてご指摘いただきました。



交野市では、今年度より、すべての学園において小中一貫教育を本格実施しています。現在のコロナ禍において、積極的に児童生徒及び教職員の交流を行うことは難しいですが、このような状況だからこそ必要なこと、そしてできることを、小中の先生たちが連携し、各学園の子どもたちのために考え、取り組んでいく必要があります。

本フォーラムでは、このことを改めて共有すること、そしてそのための多くの具体的な示唆を、竹内先生からいただくことができました。